



国土交通省  
国土地理院

# 国土地理院広報


2023年10月発行

第664号



筑波山山頂より筑波研究学園都市方面を望む

## CONTENTS

- 1. G空間EXPO2023「Geoアクティビティコンテスト」等を開催 ..... 2
- 2. 日本の「領土・主権」を考える ..... 3
- 3. 第5回「『活断層の学校』in つくば」を開催 ..... 4
- 4. 第240回地震予知連絡会の開催概要 ..... 5
- 5. 「自然災害伝承碑 」ウェブ地図「地理院地図」での公開数 ..... 6
- 6. 9月の報道発表・11月の主な行事予定 ..... 6

## G空間EXPO2023「Geoアクティビティコンテスト」等を開催

11月7日(火)・8日(水)に「G空間EXPO2023～いま、ここ、未来。すべてはG空間の中に。～」が東京都立産業貿易センター浜松町館(東京都港区)及びオンラインで開催されます。その中で、国土地理院は「Geoアクティビティコンテスト」と「地理院地図パートナーネットワーク会議」を主催します。

### ○ G 空間 EXPO2023

地理空間情報の最先端技術やサービスを集結し、広く一般の方々に対し、未来をつくる日本の技術やサービスを紹介するとともに、新たな技術やサービスの創出、民間事業者等の提案や創意工夫を掘り起こす場として、産学官の連携により「G空間EXPO2023」(主催：G空間 EXPO 運営協議会)を開催します。  
会場開催は、昨年と同じく「東京都立産業貿易センター浜松町館」です。

#### ■ 開催概要

名称：G空間 EXPO2023

～いま、ここ、未来。

すべてはG空間の中に。～

会期及び会場：

【会場開催】※入場無料

11月7日(火)・8日(水) 10:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館 5階  
〔東京都港区海岸 1-7-1〕

<https://www.sanbo.metro.tokyo.lg.jp/>

【オンライン開催】

11月1日(水)～12月10日(日)

G空間 EXPO 公式サイト

<https://www.g-expo.jp/>

主催：G空間 EXPO 運営協議会

構成：①地理空間情報フォーラム

②Geo アクティビティコンテスト

③講演・シンポジウム

以下、国土地理院主催イベントを紹介します。

### ○ Geo アクティビティコンテスト

「Geo アクティビティコンテスト」は、公募により選ばれたの方々(以下「出展者」という。)が、G空間情報に関する先進的な取り組み、新たなサービスなど(以下「作品」という。)を展示とプレゼンテー

ションで紹介します。作品については、産学官の有識者からなる審査委員会において審査を行い、優秀作品を表彰します。

会場では2日目の11月8日(水)浜松町館5階展示室内メインステージにおいて、出展者(今年は15組)のプレゼンテーション(口頭発表または発表動画放映)と表彰式を行います。

作品は、G空間 EXPO2023 公式サイトでも公開予定です。

### ○地理院地図パートナーネットワーク会議

「第15回地理院地図パートナーネットワーク会議」を開催します。地理院地図・地理院タイルをはじめとする地理空間情報の地方公共団体での活用事例についての講演及び地理院地図パートナーによる発表を行います。

1日目の11月7日(火)浜松町館4階第2会議室において開催し、会議の様子は、インターネットで全国にライブ配信します。



最新の情報については、G空間 EXPO 公式サイトのほかX(旧 Twitter) (@g\_exp0) で発信しますので、ぜひご覧ください。

多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。  
(企画部・地理空間情報部)

## 日本の「領土・主権」を考える

### 領土・主権展示館 地方巡回展in首都圏 つくば会場

国土地理院と内閣官房 領土・主権対策企画調整室との共催により、日本の「領土・主権」に関するパネル展を10月24日から12月17日の間、開催しています。

国土地理院は、内閣官房 領土・主権対策企画調整室との共催により、「地図と測量の科学館」（茨城県つくば市）において、“領土・主権展示館地方巡回展 in 首都圏つくば会場”を10月24日から12月17日（日）までの間、開催しています。

巡回展として“日本の「領土・主権」を考える”と題し、地図と測量による領土の明示に関する資料と、北方領土・竹島・尖閣諸島にかかる資料を展示しています。

日本列島は大きく分けて北海道、本州、四国、九州で形成され、これらを含む島の数は14,125島（令和5年2月28日発表）にのぼります。国土地理院は、これらの島々の正確な位置や形状を把握するために測量を行い、地図を作成していますが、その中には火山噴火により変化した島や北方領土・竹島・尖閣諸島を含む国境離島も含まれています。

今回の展示では、国土地理院とその前身の機関が継続的に実施してきた、離島の基準点の設置、地形図作成等、測量による国内外への領土の明示及び領土の保全・管理に寄与する取組を紹介するほか、領土・主権展示館のパネル解説により、北方領土・竹島・尖閣諸島について歴史的経緯や我が国の立場などを分かりやすく学べるような内容となっております。

世界のすべての国家は、領土をもち、そこには国家の主権が及んでいます。日本にも領土があり、そこには日本の主権が及んでいます。このパネル展を通じ、日本の領土・主権についての認識と、国土地理院が行っている日本列島の島々の測量や地図についての理解を深めていただければ幸いです。

領土・主権展示館 地方巡回展 in 首都圏 つくば会場

# 日本の「領土・主権」を考える

地図と測量による領土の明示パネル展

北方領土・竹島・尖閣諸島パネル展

竹島ではアシカの捕獲やアワビなどの採取を行っていました。

北方四島には約17,000人の日本人が暮らしていました。

尖閣諸島では200人以上の日本人がカツオ船などを作って生活していました。

10.24 四 - 12.17 日 月曜休館 入場無料 地図と測量の科学館 2階「特別展示室」

【共催】内閣官房 領土・主権対策企画調整室 / 国土交通省 国土地理院

国土地理院 領土・主権展示館 領土・主権対策企画調整室

【所在地】東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビルディング1階 【電話番号】103-6257-3715

詳細については、「地図と測量の科学館」のHPをご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>



(総務部)

## 第5回「活断層の学校」 in つくばを開催

9月13日に第5回「活断層の学校」 in つくばを実施しました。

「活断層の学校」 in つくばは、(一社)日本活断層学会が主催し、国土地理院、(国研)産業技術総合研究所地質調査総合センター、(国研)防災科学技術研究所が共催して、2018年度から開催しているものです。

今年で5回目となる「活断層の学校」 in つくばは、大学生・大学院生を主対象に、9月13日から15日までの3日間、国土地理院など、つくば市内にある活断層研究に関連の深い3機関において、活断層研究への総合的な理解を深めてもらうことを目的として開催されました。

国土地理院では、防災・地理教育支援の取組の一環として、9月13日に現地対面とオンラインによるハイブリッド方式で実施しました。今年の参加者は、現地対面がオンラインを大きく上回り、対面で参加しやすい環境になった印象を受けました。国土地理院での実施内容は、以下のとおりです。

■参加者数：現地対面 15名(12大学)  
オンライン 7名(6大学)

### ■講義の内容：

- 講義1 「宇宙から探る地下の断層  
～宇宙測地技術を使った地震研究の今～」
- 講義2 「[1:25,000 活断層図]  
～その背景と整備について～」
- 講義3 「ウェブ地図「地理院地図」を使ってみよう！」
- 見学 地図と測量の科学館、電子基準点
- 講義4 「活断層判読実習」



講義2「1:25,000 活断層図～その背景と整備について～」

はじめに、鈴木康弘すずき やすひろ日本活断層学会長及び大木章おおく しやういち国土地理院長による開講挨拶が行われ、その後、国土地理院で地殻変動等を研究する地理地殻活動研究センターの研究者、活断層図の整備を担当する応用地理部及び地理院地図を担当する地理空間情報部の職員が講義を行いました。

また、現地対面の参加者は、「地図と測量の科学館」や電子基準点の見学を行い、最後に日本活断層学会の講師による活断層判読実習に臨み、活断層がつくる断層変位地形の判読方法や判読事例を学びました。



電子基準点の見学

すべての講義の終了後に、日本活断層学会から講評をいただき、国土地理院における第5回「活断層の学校」 in つくばは無事終了しました。

3日間の全日程を終えたあとに実施した受講者アンケートの結果では、「国土地理院での講義はよく理解でき、新たな知見が広がった。」「違う分野を研究する学生との交流を深めることができた。」との回答が寄せられました。今後も、将来を担う技術者の育成に積極的に取り組むための具体策のひとつとして、「活断層の学校」 in つくばを共催し、国土地理院の魅力のある事業をわかりやすく伝えていきます。

(防災・地理教育支援事務局(応用地理部))

## 第240回地震予知連絡会の開催概要

8月31日に関東地方測量部において第240回地震予知連絡会がオンライン併用で開催され、全国の地震活動、地殻変動等のモニタリング、地殻活動の予測についての報告のほか、重点検討課題として「関東地震100周年」に関する報告・議論が行われました。



第240回地震予知連絡会の様子  
(オンライン併用)

地震予知連絡会では、地震予知研究にとって特に検討すべき課題を「重点検討課題」として選定し、報告とそれを基にした議論を行っています。本年は、我が国史上最悪の地震災害であった1923年関東大震災から100周年であることから、「[関東地震100周年](#)」を課題として、以下の①～⑤の報告が行われました。また、総合討論では、関東地方の地下構造・地震活動、測地観測とプレート間カップリング、関東地震の被害と強震動、津波、歴史地震と変動地形についての議論が行われました。

### ① [関東地方のプレート構造と地震活動](#)

観測網の進展等により、現在、フィリピン海プレートの形状について、新知見が得られ、従来よりもプレート境界深度が浅い可能性が指摘されていること、こうした知見は、プレート境界付近での地震発生の仕組みを理解し、強震動の発生を予測することに貢献することが報告されました。

### ② [測地観測による1923年関東地震とその後の地殻変動-地震時すべり、プレート間固着及びスロースリップ-](#)

地震後の100年間で地震時地殻変動の約1/4が回復し、現在のGNSSデータからは関東地震の震源域から房総半島南東沖まで強く固着していることが推定されること、房総半島南東沖では、Mw6.5を超えるSSE<sup>\*</sup>（房総SSE）が準周期的に発生しており、さらに沖合でも大規模なSSEが発生している一方、これらのSSE発生領域と1923年関東地震の震源域の間には複数のギャップがあり、現在のところ、これらの地域の地震発生ポテンシャルは不明であることが報告されました。

<sup>\*</sup>SSEは、スロースリップイベント（Slow Slip Event）の略で、通常の地震のように断層が急激にすべることなくゆっくりとすべる現象です。

### ③ [1923年関東大震災と南関東の強震動](#)

住家全壊率から強震動を推定すると、震源域直上から埼玉県東部の沖積低地に震度6弱から震度7に至る高震度地帯が認められ、地形や地質等の地盤条件が地震動の大きさに影響している可能性が高くなること、関東大震災は、台風の余波による風速10～15m/秒の強風を主要因とする大火災による被害が中心でしたが、それは特殊な気象条件と言えず、大地震との同時発生も想定すべきであることが報告されました。

### ④ [津波から見える1923年関東地震の震源過程](#)

1923年関東地震のすべり量分布を震源近傍の検潮所で記録された津波波形と地殻変動データから、これまでの推定結果とよく似た2つの大すべり域が推定されること、一方で、西側相模トラフ近傍に、これまでの結果とは異なる大きなすべり約9mが推定され、推定されたすべり分布を用いると、これまで説明できないとされてきた、伊豆半島沿岸の大きな津波調査結果と統合的な結果が得られることが報告されました。

### ⑤ [関東地震の履歴と再評価](#)

元禄型関東地震について地形・地質学から再評価した結果、過去の発生回数は4回と変わらないものの、痕跡の年代が変わったことで発生間隔がかなりばらつくことが確認されたこと、歴史上の関東地震について、津波、隆起の地質痕跡を再調査し、1293年正応（永仁）地震は、国府津一松田断層が同時に活動した可能性があること、1703年元禄地震は相模湾西部にあまり影響していない可能性があることなどが報告されました。

#### ○次回の会議開催予定

第241回地震予知連絡会は、11月30日（木）に開催予定です。また、次回の重点検討課題は「[予測実験の試行\(09\) -地震活動の中期予測の検証](#)」です。

#### ○会議資料の公開

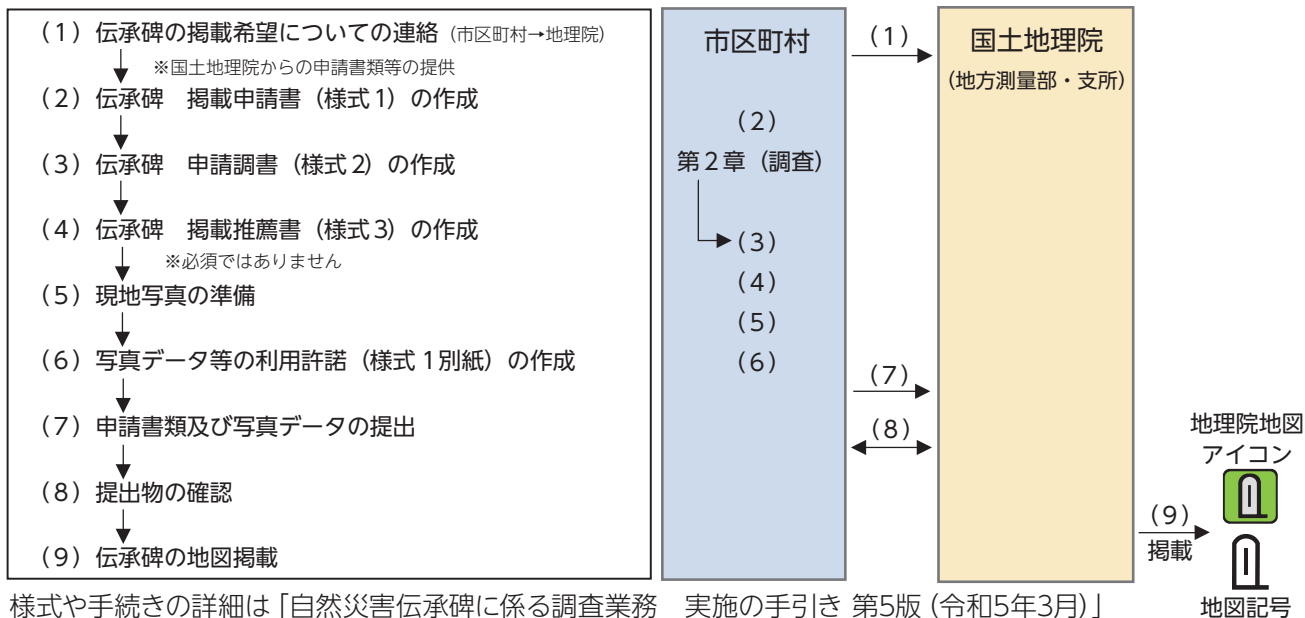
本会議の資料は、地震予知連絡会ホームページから公開されています。

<https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activity.html>  
(地理地殻活動研究センター)

|    |      |     |      |       |   |
|----|------|-----|------|-------|---|
| 47 | 都道府県 | 584 | 市区町村 | 2,037 | 基 |
|----|------|-----|------|-------|---|

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。  
**【市区町村の担当者の皆様へ】** 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

### 自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第5版 (令和5年3月)」 ([https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi\\_info.html](https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html)) をご覧ください。

### 9月の報道発表

|     |                                                             |                          |
|-----|-------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 8日  | 令和5年8月の地殻変動                                                 | 測地観測センター<br>地理地殻活動研究センター |
| 13日 | 地理空間情報活用の新たな展開<br>～ G空間社会の実現に向けてフォーラムを開催～                   | 近畿地方測量部                  |
| 21日 | 液状化などの災害リスクが高い場所がわかります<br>～「明治期の低湿地データ」の整備範囲を大幅に拡大しました～     | 応用地理部                    |
| 27日 | 活断層の正確な位置を知ろう<br>～長町-利府線断層帯とその周辺「松島」など8面の活断層図を公開～           | 応用地理部                    |
| 28日 | 自分と大切な人を守る行動につなげる<br>～2,000基を超える自然災害伝承碑が伝える災害の教訓～           | 応用地理部                    |
| 28日 | これでわかる!身の回りの自然災害リスク<br>～愛媛県西条市などの「数値地図 25000 (土地条件)」を公開します～ | 応用地理部                    |

報道の内容は、国土地理院ホームページ> 2023年 報道発表資料一覧 ([https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2023\\_00001.html](https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2023_00001.html)) をご覧ください。

### 11月の主な行事予定

|               |                                                                                                     |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10/24 ~ 12/17 | 地図と測量の科学館<br>領土・主権展示館 地方巡回展 in 首都圏 つくば会場<br>日本の「領土・主権」を考える<br>北方領土・竹島・尖閣諸島パネル展<br>地図と測量による領土の明示パネル展 |
| 11/7・11/8     | G空間 EXPO2023<br>【開催場所】東京都立産業貿易センター浜松町館 5階<br>※オンライン併用【オンライン開催期間】11/1 ~ 12/10                        |
| 11/30         | 第241回地震予知連絡会                                                                                        |

国土地理院広報は、  
国土地理院ホームページ> 広報誌 > 国土地理院広報 (<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>) に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院  
Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番  
TEL 029-864-6255  
FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室  
国土地理院ホームページ  
<https://www.gsi.go.jp/>